

## 研究主題 「国際中等教育学校の基本計画に関する研究」

東京都教職員研修センター研修部専門研修課  
東京都立北多摩高等学校 教諭 松本吉生

### I 研究の背景とねらい

#### 1 研究のねらい

平成20年度、立川地区に東京都で初の国際中等教育学校が開校する。東京都は開校に向け、平成16年度に「立川地区中高一貫6年制学校（国際中等教育学校）基本計画検討委員会および同専門部会」を設置し基本計画の検討を始めた。また、専門部会での協議の充実を図るため、東京都立北多摩高等学校内に「中等プロジェクト委員会」を設置し、資料の収集や原案の作成を行っている。

本研究では、「立川地区中高一貫6年制学校（国際中等教育学校）基本計画検討委員会報告書」の作成に向け、国際中等教育学校における教育目標、教育理念、学校像、育てたい生徒像及び教育課程編成の方針等の基本計画にかかわる部分について原案の作成を、中等プロジェクト委員会と連携し行った。

#### 2 国際中等教育学校の設置の経緯と位置付け

東京都は「都立高校改革推進計画」（平成9年）の中で総合学科高校・単位制高校をはじめ、中高一貫教育校・第二国際高校を含む8つの新しいタイプの高校の設置を発表した。（資料1）また、その後「都立高校改革推進計画・新たな実施計画」（平成14年）において、第二国際高校を平成20年度より立川地区に国際中等教育学校として開校することとし、同年「第二国際高校（仮称）検討委員会報告書」が発表された。

第二国際高校は報告書の中で「国際都市東京の特性を生かし、国際化時代に対応できる豊かな国際感覚と優れた外国語能力を身に付けた有為な人材の育成を目指す学校」と位置付けられている。

#### 3 国際中等教育学校の特徴

国際中等教育学校の特徴は、次の点である。

##### （1）中等教育学校

中高一貫教育校の3つのタイプ（中等教育学校、併設型及び連携型）のうち中等教育学校として設置する。同一の生徒集団を対象に6年間一体的な中高一貫教育を行うことができ、さらに中等教育学校の教育課程の基準の特例を生かして、多様な進路に対応する柔軟で弾力的な教育課程を編成することができる。それにより、社会において様々な分野で活躍できる人材育成を図ることができる。

##### （2）海外帰国生徒・在京外国人生徒の受け入れ

一般生徒とは別に一定の枠を設けて受け入れる。多様な生徒が共に学ぶことを通じて、相互の文化理解が進むと考えられる。

### II 研究の内容

#### 1 基礎研究

- ・「第二国際高校（仮称）検討委員会報告書」（平成14年）や「中高一貫教育校の整備に関する検討委員会報告書」（平成14年）等の各種報告書及び中学校・高

#### 資料1

新しいタイプの高校の種類

- ①総合学科高校
- ②単位制高校
- ③チャレンジスクール
- ④科学技術高校
- ⑤中高一貫6年制学校
- ⑥体育高校
- ⑦第二国際高校
- ⑧総合芸術高校

「都立高校改革推進計画」

（平成9年）より

等学校学習指導要領の内容の整理。

- ・中高一貫教育校、国際理解教育・英語教育の実践校などの事例の収集と整理。

## 2 国際中等教育学校の教育目標

以上の位置付けや特徴をふまえ、教育目標を「国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な学問を修め、人格を陶冶する」とした。また、そのような人材育成のために①主体的に生きる力（自ら志を立て向上心をもって生きる力、自ら考え判断し行動する力、幅広く豊かな教養）②多様な文化を理解する態度（日本の歴史や文化の理解、異なる国や地域の文化の理解、様々な文化をもった人々と共に生きていく態度）③コミュニケーション能力（自分の意見や考え方を適切に表現するための論理的思考力や表現力、互いに尊重し合うことのできる態度、外国語での確に意思の疎通を図る能力）の3つの資質・能力が必要であるととらえ、これらの育成を図るとともに教育理念・学校像・育てたい生徒像を資料2のようにまとめた。

### 資料2

教育目標 国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な学業を修め、人格を陶冶する。

国際社会に貢献できるリーダーとして必要であるととらえた資質・能力

①主体的に生きる力

②多様な文化を理解する態度

③コミュニケーション能力



#### 学校像

- 1 中等教育学校として、6年間一貫教育を実践することによって、生徒の能力を引き出すことができる学校。
- 2 国際的視野に立った幅広い教養と国際社会で活躍できる判断力や行動力を養う学校。
- 3 日本の歴史や文化への理解を深めるとともに、多様な文化を理解し、異なる文化をもった人々と共に生きていく態度を養う学校。
- 4 国際社会において、自分の考えや意見を表現できる論理的思考力・表現力を身に付けさせ、コミュニケーション能力を養う学校。

#### 教育理念

##### 1 立志の精神

国際社会に生きていく人としての自覚をもち、自らの志を立て、未来を切り開く力を育成する。

##### 2 共生への行動

国際社会にあって、自己の考えを明確にもち、それを表現できる能力を養うとともに、異なる文化を理解し、尊重する教育を展開する。

##### 3 感動の共有

学校教育のあらゆる場において、生徒の主体性を重んじ、達成感、連帯感を育成する。

#### 育てたい生徒像

- 1 幅広く学び、より豊かで深い教養を身に付けた生徒。
- 2 日本語への理解を深め、豊かな表現力をもつ生徒。
- 3 将来、国際社会で活躍できる素養のある生徒。
- 4 国際社会において必要な、英語を中心としたコミュニケーション能力をもつ生徒。

### 3 教育課程編成の基本方針

以下の点を教育課程編成の主な基本方針とした。

- ・基礎学力の上に幅広い教養教育を展開する。  
論理的な思考の根幹となる日本語の基礎・基本を定着させる。また、全教科において6年間の学習内容の編成・組立てを行い、基礎・基本の定着を図るとともに発展的な内容についての学習も取り入れる。
- ・生徒の自己形成と多様な進路選択を実現するための指導を展開する。  
課題学習などを活用し、6年間を見通して継続的・計画的に生徒の職業観を育てるとともに、主体的な進路選択の態度を育成する。
- ・国際社会に生きる日本人としてのアイデンティティを育成し、国際理解教育を展開する。

日本の伝統的な文化や芸術に触れる機会を設けるとともに、6年間を通じて英語によるコミュニケーション能力を育成する。また、留学生の受け入れや、海外を含む大学や国際協力機関等とも連携を図り、国際社会と日本のかかわりについて理解を深めさせ、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を学ばせる。

### 4 特色ある教育活動（英語イマージョン教育の展開）

特色ある教育活動として英語イマージョン教育を展開する。イマージョン（immersion）とは「浸す、どっぷり浸ける」などの意味で、イマージョン教育とは通常の教科の授業を第二言語で教えることにより、学習者に自然に第二言語を習得させる方法をいう。現在、都内の中学校や他県においてもいくつかの学校が実践しており、その実践事例の視察等を行い導入に向けての課題等を明らかにした。

英語イマージョン教育の導入にあたって考えられる主な課題

- ・指導者（英語以外の教科の指導が可能な外国人講師）の継続的な確保
- ・大学受験への対応
- ・教科書や副教材などの整備

特に指導者の確保は現在実践している各校にとって最も大きな課題で、各教科を教えられる知識と技術だけでなく日本の教育に対する理解のある人材を、長期にわたり継続的に確保する方法の検討が必要である。実践校では特定のクラスや教科に限定して部分的に英語イマージョン教育を導入しているのが現状である。また、英語イマージョン教育は外国語の学習には効果はあるものの、数学や社会などで学習内容が高度になるほど、より高い語学力が必要となり国内の大学受験への対応にも配慮する必要がある。

さらに教科書・副教材の整備をはじめ様々な課題が考えられるが、今後導入に向けてそれらを一つ一つ検討していくことも東京都における国際中等教育学校の役割の一つである。

### 5 教科等の指導の展開

教科等の指導においても、教育目標である主体的に生きる力、多様な文化を理解する態度、コミュニケーション能力の3つの資質・能力の育成を目指し、その関連を表1のようにまとめた。

- ・国語：思考を構造化する技術など、論理的思考力・表現力を高めるための指導や、古典の暗唱なども学習や発達の段階に応じて計画的に取り入れる。

- ・ 社会・地理歴史・公民  
：「世界の中の日本」の視点に立って、多様な考え方・ものの見方に触れることで、ものごとを多面的に考察する力や問題解決能力を育成する。
- ・ 理科：後期課程においては、すべての科目（物理・化学・生物・地学）の内容を学習し、多面的に探究することにより自然を深く理解させる。
- ・ 外国語（英語）  
：「聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと」の四技能の総合的な能力の伸長を図る。また、レシテーション（暗唱）やスピーチコンテストなどの機会なども活用する。
- ・ 技術・家庭（技術分野）・情報  
：コンピュータの基本的な操作だけでなく、情報を活用する際のルールやマナーを理解させ、情報の受け手を意識した情報の発信ができる生徒を育成する。
- ・ 道徳：身近な課題から世界の諸課題などを取り上げ、国や文化の違いによって様々な立場の見方や考え方があることを理解させる。
- ・ 特別活動  
（学級活動・ホームルーム活動）  
：自分の意見を積極的に述べ、また様々な意見を認め合うことを通じ、集団としての意思決定の方法などについて学ばせる。  
（学校行事）  
：英語合宿、海外研修旅行などの宿泊を伴う行事を通して、異文化理解を深めるとともに生徒相互の交流を図る。また、ボランティア活動を推奨し、地域社会に積極的に貢献する態度を養う。
- ・ 総合的な学習の時間  
：6年間を見通した生徒一人一人のキャリア教育を念頭にテーマを設定し、課題学習に取り組ませる。教科学習を補完し、教科学習では取り組みにくい論述やプレゼンテーションなど、生徒の表現力の育成を図る。

表1 国際社会に貢献できるリーダーとして必要であるととらえた資質・能力と教科等との関連

教科等（一部）		主体的に 生きる力	多様な文化を 理解する態度	コミュニケー ション能力
国語			○	◎
社会・地理歴史・公民		○	◎	
理科		◎		
外国語（英語）			○	◎
技術・家庭（技術分野）・情報				◎
道徳		○	◎	
特別活動	学級活動・ホームルーム活動	◎		◎
	学校行事	◎	◎	○
総合的な学習の時間		○		◎

◎ 強い関連がある      ○ 関連がある

### Ⅲ 研究の活用

平成20年度の「立川地区中高一貫6年制学校（国際中等教育学校）」の開校に向けて、教育課程の編成等に活用する。